江城年録 壹

内閣文庫
和書
類 三三一三三 號
七 冊
一大函 一八 架

518
431

内閣文庫
番號	和	33133
冊數		7（1）
函號	263	79

和書
三三一三三號

共七

263-79

江城年録一

元和十年甲子

一正月小

朔日丙辰元日之御祝式 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江城年録一

元和十年甲子　二月晦日改元寛永元年

一正月小

朔日丙辰　元三之規式

紀伊殿　水戸殿　西の丸江出仕 [illegible]

初献　将軍様御盃紀伊殿被下之、水戸殿上ル御盃右之後

被下之、舎人御盃頂戴之、御腰物拝領、其後如左之盃

水戸殿上ル御盃松平伊豫守頂戴、御腰物拝領、御盃松平下野守頂戴

右之通

二献　御盃紀伊殿江　水戸殿上ル御盃右之後頂戴　松平伊豫守

通り加之部

三献 御盃紀伊殿頂戴 干盃 尾張殿 干盃 松平伊豫守 夫より

三献目加之部

一 二日 諸大名之御礼畢 紀伊殿水戸殿 御前ニ出仕

ツリの以上 大広間 御手付

御出座 大御所様 御盃紀伊殿頂戴 御前へ上 御盃尾張殿頂戴

尾張殿盃 御前へ上 御盃 松平伊豫守頂戴 天盃通り加之

二献 御盃紀伊殿頂戴 御前へ上 尾張殿頂戴 御前へ上 御盃

松平伊豫守頂戴 天盃とをる

三献 御盃紀伊殿頂戴 干盃 水戸殿盃 松平伊豫守 天盃通る

二献より 御加へ之

一 二日晩 於西丸 御膳 初紀伊殿 甲斐殿 水戸殿 并出仕

あくらの御膳 御座

御座

初献 御盃紀伊殿頂戴 盃御前へ上 御盃甲斐殿頂戴 御前へ

上 御盃水戸殿頂戴 干盃 松平 御加へ之

二献 御盃甲斐殿頂戴 御前へ上 御盃紀伊殿頂戴 御前へ

上 御盃水戸殿頂戴 夫より御加へ之

三献 始めの盃 御盃紀伊殿頂戴 甲斐殿 水戸殿 ゆゑ紀伊殿

御上て 盃御下され 上 御盃紀伊殿 それより 甲斐殿

尾張殿ゟ上ル御鷹之鶴甲斐守殿 紀伊殿 水戸殿之鶴ゟ献ル

以次水戸殿到来ニ付尾張殿ゟ上ル鶴頂戴（内盃）

一 三日 諸人御目見

一 四日 代参者御目見

一 五日 御茶湯初

一 六日 諸寺院山之出家社家山伏御目見

一 七日 町人御目見 御謡初

一 八日 尾張殿日光ゟ御参儀ニ而御帰

一 十七日 上様紅葉山ゟ御参詣

一 十九日 増上寺御同輩御目見等有之

一 廿日 御具足之御祝ニ付於御黒書院有之 紹之

一 同日 安芸守使者小川新九郎御目見

相済候付

一 東福門院様ゟ出仕 御臺様ゟ御使 御目見之献上

御条進上 御臺様ゟ金子千両

一 廿二日 大御所様 紀伊殿へ 御成

一 廿七日 将軍様 紀伊殿へ 御成

一 二月廿六日 大御所様 水戸殿へ 御成 御相伴紀伊殿

一 同十日 将軍様水戸殿へ 御成 御相伴ハ甲斐殿 丹羽

寛永三寅ノ 松平下野ト云

一 二月 京二條之御城 内書ニ寛永三年

公方様御父子御上洛之節 天子行幸之節 御用意也

就中天守ハ金物も皆金張之由 御作事奉行ハ中川

半左衛門 野村伊兵衛 棚奉行ハ佐々木平兵衛也

渡邊 普請之儀ハ是より諸御手伝ニ而候 諸大名役高之

作内文庫本 三子

一 五拾万二千五百石 本高之内御免高也 尾張中納言殿

一日 五拾五万五千石 紀伊中納言殿

一 七万石 松平阿波守

一 廿五万石 井伊掃部頭

一 十五万石 本多美濃守

一 十二万石 松平下総守

一 十万石 本多中務大輔

一 十万石 小笠原右近大夫

一 三万石 松平河内守

一 十万石 水野日向守

一 廿万石 本多甲斐守

一 十万石 松平安藝守

一 廿万二千石 松平山城守

一 廿万石 松平甲斐守

一 二万五千石　松平周防守
一 二万五千石　安部内膳正
一 二万石　松平紀伊守
一 二万二千二百五十二石余　松平将監
一 三万石　菅沼織部佑
一 同廿日　将軍様　松平陸奥守政宗宅江御成
一 同廿九日　公方様　伊達政宗亭江御成
一 三月小　去ル　松平右馬頭一万八百石之御加増合二万石
拝領野州烏山城ニ被仰付　右者松本より下ル
一 万石余之中ニ而烏山ハ在城之間右高附三万八千石余ニ成

一 上之同一万八千石ハ上ル
一 尾張殿　紀伊殿　日光江御参詣
一 四月大　五日　将軍様　松平下野守忠郷宅江御成
一 同十四日　大御所様　松平下野守亭江御成　御供水戸宰相殿
御座敷之荘
一 茶入　玉きれ　一 かけ物　春甫　一 ミうき盆
一 冬きりの間の床ニ　古今　為相筆
一 二このまの床ニ　瀟湘夜雨の掛物　牧渓筆
一 同十日　安藤右京進為上使大坂ヘ遣　大名衆ニ求て

し御意候太儀ニ思召上意ニ而御腹被召と云也

一 同廿九日板倉伊賀守勝重於京死去八十

一 御本丸を将軍様ニ被進 大御所様西丸ニ御隠居可被成御移て西の丸御普請被仰付

〔一本大御所様御本丸ニ在後〕

将軍様ハ水戸殿御屋敷へ御移有 水戸殿ハ千寿ニ御殿有之戸に御成

一 五月大 六日越前宰相仙千代殿越後高田ニ御座 松平伊予守越前ニ高田より被移 松平出羽守越前之大野ニ信州より

〔不〕御移五万石 同大和守勝山三万石 同土佐守二万石

一 敦賀一郡[illegible]徳若様へ御領

〔小文庫本作傳十郎〕

1

一 六千三百石御加増〔本高合四万六千三百石之〕本多[illegible]守

一 六月小 十六日之晩於御本丸秋田長門守与気田七之助致喧嘩 秋田を手負討候而則切腹仕候

大御所様御煩之 十七日紅葉山ニ御参詣無之

一 七月大 十五日 将軍様増上寺ニ御参詣 廿日御上り

〔御上洛之〕安芸備後両所御預ケ被仰付太田善大夫〔御目付之役〕

一 廿日 伊達政宗子息忠宗越前守ニ〔被仰付〕

去七月十三日福島左衛門大夫正則入道高斎於信濃国川中嶋

高坂と云所ニて卒去六十四歳 子備後守忠勝先年相果

末子市之正去年正月生 父之別不和ニ而終之対面

内文庫本作三千石

不申候並ニ知行二万石被成下之 甫ニ遣ニ二千石被下置候 ハ江戸ニ

一八月小 廿九日 将軍様 御附水戸殿御家来 松平伊賀守 阿部若狭守
出雲隠岐ニ而被召出御預ケ 仰付

一所替之衆 松平丹後守 大垣より小浜ニ移 岩槻 丹波亀山より 大垣ニ移 加増被下 二万石

一九月大 六日 太閤秀吉公 大政所 高台院殿 京ニ而
御果 廿年以来 今迄 御知行 二千石 被下置候
御葬式ニ被下 御同領男 御遺跡 金子之 高台院へ
東山ニ 寺領 被下

一同八日 御同姓 御遺跡 御具足 被下 御遺跡とこそ有之

内文庫本土作国

射手廿人被預候 御附水戸殿御家ニ 被遣

一旗本衆 秋田出羽守 御番頭 松平伊賀守等 仰付 組頭

一十一月小 三日 大御所様 西の丸ニ御移

一同十日 将軍様 御本丸ニ御移 御台様 御輿入 京より
西の丸ニ御入 今日 御祝言 鷹司関白信房公女
御父君より御祝儀として御樽肴 指上

一同十三日 御祝儀之御能有之

一朝鮮王より 将軍様 御代替之為御祝儀使者を
上ル 同十一月 江戸へ致参着

一十二月小 四日 大御所様 西の丸より 御本丸ニ 御成 被仰付

甲斐守水戸殿前ニ座ゟ御挨拶之上八寸 初献ニ而出
将軍様ニ御盃戴之上ニ而御肴之ニ而盃甲斐守ニ御盃戴之上
水戸殿まいり 相済る
二献 将軍様ゟ始ル 大御所様ゟ之ニ而盃之上水戸殿御盃戴
之上甲斐守まいり 相済る
三献 大御所様ニ始ル盃之 将軍様御盃戴ニ而盃之上甲斐守ニ御戴
戴之上水戸殿へまいり之上 将軍様ゟ之上ニ而挑子入
差之ニ而勝手ゟ入御納戸半ニ而勝手ゟ入
ニ而盃之御肴 初献二献之ニ而ニ出し而まいり ニ而挑子
三献 大御所様ニ而初ニ而盃之将軍様ニ御盃戴ニ而盃之甲斐守御戴

閣文庫本作
正使

出御 将軍様ニ者之盃之上水戸殿まいり之上盃之上御肴和泉守
引出物相済る ニ而後之ニ而勝手ゟ入ニ而殺首ニ而然ニ而道
将軍様御座を御立
一 大御所様上ノ衣を 将軍様ニ而御戴衣を水戸殿ニ而待者
甲斐守殿くらを 衣を水戸殿まいり衣を後堂 和泉守御引
相済候
御殺首を出御縁ニ而勝ニ而ん物ニ而往還御
一 同十二日 朝鮮人御饗応 於本所本誓寺ニ而被遣之人数衣装を
御饗応人ゟ入御之御馳走を被為 同御肴ニ而 かし
路次ニ而そこ支ニ 被成候ニ付申
一 同十九日 被出候 王使 通政大夫 副使ハ通訓大夫

毎弘重従事官通訓大夫文李啓栄也　此時梅菴号雄長几
其大将はさまさま後をまみ華の天かひをさまくせまえて龍穴
の紋のつきたる旗をもたせ御門出て宮縁をいて出城せ
諸大名御家陸参来して出迎　唐人来拝ある　より神田信
しまつの入竹屋にて入け入西の丸へまかりて出候
御屋形に参りて寄せつる時

一朝鮮王より進物
一御鷹　一御馬三疋　一虎皮十五枚
一豹皮十枚　一青皮十枚　一人参五十斤
一鮫百本　一腰刀廿本　一油布百端

家文庫本約紀切

一三使進上物
一虎皮廿枚　一てりふ（照布札）卅疋　一花莚廿枚
一同廿二日　朝鮮人の行列備国

朝鮮國王李倧　奉書
日本国王殿下
上年馬島遠労使价越海修聘良荷
善意就傳報憑審賢王光兼今緒思
篤前好鄰交之義寔功惟慶　茲遣
近臣顯備賀儀兼修盛礼　土宜邑薄

媿六幣
所冀益固
鴻基
茂膺休祉不宜
天啓肆年捌月　日
朝鮮國王李倧

日本國源家光[奉復]
[朝鮮國王殿下]
維時臘天寒氣逼人茲蒙
一封吉[書]

三官使之温諷一團和氣恰如春風
中帀章統領日域忽達
貴國修礼致賀若干珍産来納
感佩継前怨篤[篤]鄰文[交]之良意益
切忻慰確約兩邦流慶万代敢而
旬間洄矣
伏冀
順時爲
國自愛不宜
龍集甲子冬十二月　日

日本國源家光

朝鮮國禮曹參判吳 百齡 奉書

日本国執政僉閤下

迯聞

貴國

新王繼位邦運重開緬惟殷臨大臣左右輔衛奠

鴻基於肇国(國)錫福祚(祚)於久遠甚慶我

王殿下兼審

新王不愆舊約思繼前好誠意奉々(奉々)出於尋

常故差專使奉幣馳賀兼答馮賀使之未

意所以明累世之

信結

兩國之驩使彼此億萬烝黎咸囿於安生樂

業之中休哉且聞本國人口前日未及盡還

留在

貴境者尚多懷土思鄉人情所同及其倪(倪)髦

古訓所許更仰無遺刷出付此使臣之歸以

修鄰好之義不勝幸甚不腆副怗聊(表)遠

帆(忱)邑是(足)稱伐綩(統)希

崙亮不宣

天啓肆年捌月　日

朝鮮國禮曹參判吳　百齡

日本國臣
雅樂頭藤原忠世
大炊頭藤原利勝
阿波守藤原忠行
讃岐守藤原忠勝　謹奉報章

朝鮮國禮曹參判　麾下

珍滌圭復多幸吾　新大樹源君受大人父君禪主
日域掌宇内國豊民樂越三員　大官使捧
貴國王殿下詔書來　朝修盛禮備賀儀
歡納無他至　微臣　亦　遂一有恩賜如副拈領之而進
以爲榮不變旧好弥修隣盟者此　彼之良策也
貴國人口留在吾　邦者先年依懇求普䁥
城中刷還之楢漏其網者吏無望鄕情也不堪
強還是安生樂業之道也乞思慮焉
風化都在　三官使一歷覽餘蘊東商閣之
仰冀能保　千鈞躬永作万年計不悉

龍集甲子冬十二月　日

日本國臣
讃岐守藤原朝臣
河波守藤原忠行
大炊頭藤原利勝
雅樂頭藤原忠世

寛永二年乙丑正月大
一正月朔日早天 公方様西之丸ヘ為御礼被成候ニ付而
尾張殿水戸殿 加賀中納言殿駿河大納言殿 御出仕
公方様還御以後 還御以後諸侯御礼初
一今日諸国諸大名四節 諸大名御礼銀子差上 法蓋之御吉 従是御断
福次以盃尾張殿駿河殿水戸殿以御盃戴候而盃 御前ニ上 以盃
松平讃岐守如例戴 右法眼以御盃頂
二献以盃駿河殿尾張殿以御盃戴盃 法前ニ上以盃水戸殿御盃戴盃
松平讃岐守如例ニ不絶

三献ニ而盃尾張殿頂戴ニ盃駿河殿ニ盃水戸殿ニ盃松平筑前
守松平出羽守松平右京大夫松平伊勢松平宮内少輔三献迄頂戴
ニ而銚子ニ而盃出ル頂戴之間ニ而肴ヲ盃を指返申

一 二日晩ハ尾張殿水戸殿何茂御家人西丸ニ出仕

ニ而盃之御肴

一 初献ニ而盃尾張殿水戸殿ニ而頂戴之盃御前ニ上ル盃松平宮内少輔
頂戴之由御

二献も初献同

一 三献目ハ松平出羽守松平右京大夫松平伊勢松平宮内少輔ニ而銚子ニ而
肴ニ而盃ヲすへり出之頂戴仕盃を指返申

一 二日之晩御本丸ニ而謡初之時分尾張殿水戸殿ニ而出仕
ニ而駿河殿ニ而茂御出仕 御家人ニ而御名代之衆其外ニ而出仕

御盃之御肴

初献ニ而盃尾張殿駿河殿ニ而頂戴于盃
御前ニ上ル盃水戸殿頂戴盃之とる
二献ニ而盃駿河殿頂戴于盃尾張殿ニ盃水戸殿一盃之とる
三献ふきの尾ニ而盃尾張殿ニ盃駿河殿ニ盃水戸殿盃之也
此次ニ御相伴ニ而盃駿河殿ニ而肴をとる盃をとる又例之通
ニ而盃尾張殿ニ而肴をとる盃をとる

一 三日諸人之礼ニ而候

一 四日 代官衆御礼ニ罷出

一 五日 御茶之湯初

一 六日 諸出家社家山伏之御礼

一 七日 町人之御礼

一 八日 西之丸様出御板橋御成ニ而御鷹野

一 廿日 御具足之御祝ニ而歌之

梅か香や千代万世の松の風

はしのある日の出宗の空

此道は末高根の声もなかりけり 御

其八中

一 二月小 六日 大御所様駿河殿屋形江御成より

中納言殿ニ御成ニ而御成之上御能有之中納言殿

御つき出てかへてより上下群集

一 今日ニ而御供尾張殿水戸殿御茶和泉守

御留守御年寄

初献ニ而御盃尾張殿中納言殿御盃被下

御前ニ上ニ而駿河殿御盃被下御盃上ニ而御盃水戸殿御盃被下

二献ニ而御盃尾張殿ニ駿河殿ニ而御盃被下御盃上ニ而尾張殿ニ而

献之御盃水戸殿御盃

三献ニ而御盃尾張殿御盃被下御盃

御前ニ上ニ而御盃被下御盃 御前ニ出ニ而駿河殿ニ而御盃

御七五三之御膳上候而御膳出初献ニ出候ニ而御銚子出也
一献目出度三献上候御盃上ル御盃尾張殿御持参ニ而頂戴
御盃御祐筆ニ上ル御盃ヲ細川殿ニ而頂戴御盃御祐筆ニ上ル御盃ヲ水野殿ニ而頂戴
御盃被下和泉守ニ被下候也

一 二月十日山田宗城代ニ被下候御太刀進上ニ而御目見

一 同月大沢兵庫頭馬進上御目見仕十端花之御礼申上
行上總入道二百疋献上之御通リ御目見計之事

一 松平出雲守 植村帯刀 松平大隅 牧野内匠 安藤 牧野伊予守
植村出羽 以上七組斗 太刀 一所ニ御目見仕 大番二組
本多備前守其外御目見仕候而御目見之御礼申上

此外在江戸之諸大名御目見仕候御目見之通二組今日
之方ハ御表ニ而御目見御附之御礼十二月之通
御目見ハ御次ニ而御礼申上二百疋献上之事

一 今日一所ニ出仕大名十端花之御礼申上御目見仕候ハ久世
三人 植田 牧野 酒井大炊
御前上總守 本多上野守同前之事

一 二月十三日将軍様駿河中納言殿へ御成 水戸中納言 尾張宰相 水戸殿
進上物 御太刀 国宗 長光 御脇指 金江 御腰物 銘吉光 銀子百枚
白銀百枚 金襴 緞子二百巻 黄金三百枚 綿二千把
御馬 鹿毛 栗毛

御能組

観世 難波 山科 大 庄五郎 小 清次郎 笛 市之丞 太 長吉

七大夫 敦盛 権之丞 大 庄五郎 小 [illegible] 笛 [illegible] 太 [illegible]

七大夫 野ゝ宮 権之丞 大 九郎兵衛 小 [illegible] 笛 [illegible]

七大夫 鍾馗 権之丞 大 [illegible] 小 [illegible] 笛 [illegible] 太 長吉

観世 [illegible] 山科 大 [illegible] 小 清次郎 笛 [illegible] 太 [illegible]

七大夫 [illegible] 山科 大 [illegible] 小 [illegible] 笛 [illegible]

観世 [illegible] 清次郎 大 [illegible] 小 清次郎 笛 [illegible] 太 長吉 又三郎

[illegible] 三番三 権之丞

なゝ八つかち さき 権之丞 らくあミ 清次郎

しつかさる さき 権之丞 いくる

すゑひろ 大蔵さき [illegible] 女 [illegible] 権之丞 [illegible]

一 二月十八日 将軍様 [illegible] 御成

一 同廿二日 御成 [illegible] 水戸様 [illegible] 院 [illegible] 大名 [illegible]

公方様 [illegible] 御 [illegible] 柳生但馬守

[illegible] 太田

[illegible] 尚附

[illegible]

公方様御成 [illegible]

立御茶之余り之猶惑丹後守江御茶屋ニ而為御亭主
一十四日　江戸江還御
一十六日　将軍様ニ尾張殿江御成、依之猿楽被仰付、今日ハ
丹羽五郎左衛門も名代ニ晩ニ拝領地ニ参候
公方様ニも御成ニ而御侍衆御供　御成尾張殿頂戴御座候
右之衆へ拝領地へ参候ニ付御刀脇指拝領被成
御目見之衆内々御懇ニ御留之間ニ候　御目見人数御出
入御ノ時水戸殿御案内被成　将軍様御相伴ニ御座候
御座ニ出来候ニ付御膳出御茶御膳　ニ三之膳御前ニ尾張殿ニ而御膳仕
御茶之御花　将軍様ニ御成候

御茶之御再
一将軍様ニ茂上尾張殿頂戴之文を頂戴候　条之文ニ水戸殿
条丹羽五郎左衛門脇指頂戴　将軍様ニ扣之座ニ居候より
の間ニ　御成之座敷ニ御簾　御上段ニ御着座候而　御成
書院ニ　御座之間ニ　御成ニ而御膳初　三番迄　拝御成
書院御膳上ニ御献二献迄之而御前ニあかり　三献目ニ
尾張殿より上申候ニ付御暇
公方様ニも頂上之茶ニ尾張殿頂戴之茶ニ　御亭ニ上頂戴
頂戴之茶　御前ニ上水戸殿頂戴之茶　御前江参候
御前ニ　御成ニ而御膳二番迄ニ候　還御尾張殿頂戴候

水戸殿土蔵たつ御庭地之戸口迄たゝしふくさ御供
尾張殿駿河殿水戸殿引御携御茶掛

御数奇屋かけ物

一 御懸物 えんご
一 たからの布袋のかけ箱 ゆかりきさき
一 御すゝこうり 手ふくへ

御花ハ 将軍様御拝領 御箱入

一 御水さし 備前せいかう
一 すゝ藤之もん の画
一 なつゝこの茶杓 利休作

一 御釜 かく海
一 御花入 三ま玉のさまし
一 御茶入 こかうし清き
一 御茶碗 こよくの手 店あ所持
一 蓋置 ちくま

一 おこかしめんつう
一 御釼 かけ物 文殊院よりまいる

御数奇屋 くさりの間に御扱

御くさりの間書院床のかけ物

一 硯 織部所持
一 龍のひ付
一 水入
一 奥滝 けまりたの指ふりまゐる
一 御水さし ふくらかたな
一 御茶入

一 在の御刀 たゝきめすき本の指手
一 定家 御賛色
一 筆 くわんの軸
一 かうすゝ

せいちの桶
大なまし御茶會

一 天目　　ていくつき
一 たい　　あまのさ紀
一 茶杓　　織部作
一 炉釜　　児もく作
一 きすい　　ちゝく
一 こぼさこ　　八角の八けい
一 御釜　　さうち入
一 ほり
一 御くさりの間よりくさりの間に御成
さうこのゐのかまゑ

一 御掛物　　遠浦の帰帆の絵
一 中央の卓にかけの物志て乃香炉
一 かま いと　　紹鴎ニ而所持
一 水さし　　いものしら
一 茶入　　中つき
一 茶碗　　あらき
一 茶杓　　利休作
一 あこわし　　せいち
一 こぼさこ　　同
さうこのゐより御成書院ニ御成

御成書院のかざり

一 上段のおし板の内　三幅一對墨絵

一 中尊は川せいの布袋にて左右はいかいの讃在

一 左右は いきなる川にてつかれの絵　自絵自讃

一 右はちやう図り　讃同筆

一 中尊の前ハ中央の卓にて香炉のうへにせいちやうの香炉

同二重かざりの花入同しやうにて同香合そへて

一 左の對月の方にて花入ひのしきに花の色紙人形

のしきしにのせ置

花人柳

一 右ちかひ棚の前に同香の色紙花に

花人梅

一 おし板の内のかざり此斗り

一 清書院の置物　定家の古筆上下巻法皇

香爐清かりにて置

御書院なれども色紙ちかひ棚のかざり也

一 ちかひたなの中段棚に香炉の香合を置の香

炉香合をやしこちらに一所おし香合を置

一 右の一重ひき棚に花入食籠食籠の跡

かざり食籠のせて置

一右の一寸ひき棚にまき絵のちん名くれなゐのと
むすひくゝあり
一棚の一の下れ中にはなつしゐの食籠あり
一上段の中にかさ◯たつを認置櫃有之
同かゝるとり かさ◯くさくのうつは黒く◯あり
御志◯の左のちかきなしもの御刀かけあり
一たいまつ まき絵
一金のふた茶碗いるまて御茶入あり
一茶入らんもんかちのなしひ 袋文
一よりあんの天目たいすのさくあり

一三こ乙の出いかけ井あり 御うちあり
中細工有 奉頓
一御太刀 色紙 一振 一御腰物 大右文字 一腰
一御脇指 九 太刀 吉光 一腰 一呉服 二百
一御流皮 十枚 一綿皮 十枚
一銚子 三十枚
一御鍛 大左文字 一腰 一御脇指 くわのり 政宗 一腰
又其外に中細工有上
御成書院かざり此あり

一 上段杉ノ板の間　清廣石のかきやう

一 中尊　三幅一対狩野墨絵

　観音

一 左ハ　龍

一 右　虎

一 中尊ハ前ゝとりかけへし

一 ちかくの中ゝかけ物の書院書院のまへは違ひ棚の香合

さて香炉一つ置ぬことゝの年乃かはりし置候は

こにて候

一 安のちかきに違ひのかさりに花を置申へし

ちん井川

一 花の前ゝ亀をふまへたる香炉のかけ物は花[illegible]

ちんのうらそうし置へし

以上

一 左右の掛物の前ニかけ物の年口の花入かさりの[illegible]

よのかよく花を

杉戸よくの上ゝちかうり

之左梅　右竹

杉ノ板の間乃かゝりけり

旧ッ廣石書院床のかきやう

一 中ゝ右のかんなひかけ物にかけ候

一 左にからくゑの馬乃文 同手入の左にかけのかうろを
乃ひ川の中に墨置て 同左にはけのえの小刀を
かさねて 同左にさやちくとまきたいまひの筆をそへて
かさねて墨に向ふてうつそとのあまへさつけのあの
さいの文法を

一 いつもの左に筆架乃わくへ右に金すみを
のひたへしくしたるの こも置そうけのさへの墨
さしく懸かくの盆にのせて置

一 同硯の右にくわの筆え法まきかけ置

一 筆えの右にこ文のいかかひの食器法いなの

一 丸き盆石のをくなり

一 書院の天井より八角のらんかん法りうをさしわく
とたの柱にかけて 同右の柱にかけ物の絵の石壁
をかくるなり

右は広間書院のかざりやう也

書院ちかきにちかひ棚のかさりやう

一 中の棚上のまきものをかさねて文法かたの盆上のせてあり

一 左下段ひき棚に盆山なみの浮橋の石を盆上のせて
するあまたあり

一 又一段ひきて 右の棚に水瓶の筒井石付 きんらん

一乃袋に入て つい立西の御簾のきはに置

一又二重おきて右の柱にちかく南の食籠御簾のきはに置

一柱の二下にならへの食籠三ツのきはに置 食籠の

たてせいちのうちにせきしやう入て置

太平院のまへにさかひくろみのかさりけり

納言のまへのちうびくるみのかさり

一上の柱にさ地のうちひ茶碗同台法に西の御簾のきはに

あり

一同左の御きて柱に食籠のまへの法に小の御簾のきはに置

一同左のひきて柳にかけ置の鴨の番形机にのせて置

一うちの一乃下段中にかけ置 硯の内紙文台置

右左の上の足付の机のかさり物

一清ちやうさいの障子にそへて置 金銀のあみかけ物

日ちやうさいの内外にかさり中に たらしを置

一たいの中にけひきの袖包の具足用を置

一同左の足付にならへ地の太刀を

大床ちやうさいのかさりけり

一上段の中にもさに二帖横にならへて置 此屋形殿は

赤地のらんけいに置 縁同に置て様の左のまへに

なし地の御刀かけにかゝる

一 上段下段のあひに御簾をかけらるゝ下段に文台をおく
二階棚をかざりて置物かざる 棚の上に一対
かざりの香炉の台 置物 同 御本尊の左の
縁がなし地の御刀かけを置 同 かざる 棚の前より
御車よせまで雪隠の前の西の縁をへて也

進上物

一 杉原 二百　　一 白糸 一百斤

一 金襴 五巻　　一 縮緬 百巻

一 綿 千把　　一 黄金 三百枚

以上

一 上段の御床の置物 棚の左の角に香炉 台の下に
子なら茶碗をおきし ひきさげ 立花 花瓶
金のなし地の菓子盆 の天目の台 茶入 大海
たいすの上にさまざま並べて かざらるゝ 菓子 茶碗 也

一 御成書院より広間へ 御成に付 御成書院の縁まで
中納言殿 家老衆 広間へ出られる

一 杉原十帖 張子 三百枚　　広間へ添て 奉書折紙 杉原十帖 三把

一 同 文 張子 百枚　　杉原 奉書折紙 三把

一 同 同

竹腰山城
滝川豊前
渡辺半蔵

一 呉服五　同 銀子百枚　安部河内
一 同　同　同　寺尾左馬
一 同 三　同　太刀折紙呉服三之礼 銀子五十枚　清水隼人
一 同　同　同　萬松源蔵
一 同　同　同　市野辺出羽
一 同　同　同　大道寺玄蕃
一 同　同　同　遠山掃部
一 同　同　同　津金主水
一 同　同　同　平岩（照イ）河内守
一 同　同　同　長野数馬

一 同　同　呉文 椿寺
一 呉服十　銀子二百枚　隼人罷出ニ付紙出ハ申達候 成瀬隼人正
一 御広間ニ而清成進上之披露有之御取持参
而て中納言殿の御礼
一 進上之物在入て後御帳面の様御記さつら 板縁ニ而
中納言殿家来呈服為ニ御礼
一 其の外之の御馬鞍大名其重而御の鞍
跪候らし切付急度のあくせり 抜て是様二人侍
一人付て壊守より 御成人つくる 門出御膳寄の
前より御鉄砲家老之中様而たるて大室より中納言殿

同山下信濃守傳之て於御馬を庭上に引出被下諏訪部
宗左衛門請取 此時山下信濃守白洲南の方にて渡

一 番附 御能初

紀世太夫 加茂 ワキ 喜多 大 庄左衛門 小 新九郎 太 彦右衛門 笛 長兵衛

七太夫 右近 ワキ 権右衛門 大 庄兵衛 小 長右衛門 笛 長兵衛

七太夫 熊野 ワキ 喜多 大 源右衛門 小 長右衛門 笛 牛尾

一 三番過御中入之節舞台之料理三間半 庭へ被下
二汁七菜にて被下 常之通御膳所にて御膳
下ハ被仰付候年寄ニて御勝手ハ又御膳所にて御膳

七太夫 道成寺 ワキ 喜多 大 柿田 小 長三郎 太 西喜右衛門 笛 長兵衛

紀世太夫 猩々 庄兵衛 大 庄左衛門 小 新九郎 太 彦右衛門 笛 牛尾

一 大坂御城之儀者元和六年庚申二月西丸中之丸小堀遠江守
之大名衆に被仰付同年七月御曲輪櫓等出来
御普請同九年御上洛被仰付御上洛還御之後
御殿を被建二之丸本丸之御普請大形出来之由
安藤右京進を被遣 今年御城之大形御見分
酒井讃岐守 土井大炊頭 安藤右京進に被仰付
大坂に而上使に被付大形之見分御覧之後大に悦
御安堵被仰付土井大炊頭後家へ申付候由

少々相煩候ニ付御暇ニ付当番ヲ上ケ同苗浪人ニ相成大坂
江御引取候処与力之内並同心共御家来ニ被下大坂ニ而番
方勤ニ付今度大坂ニ百日程相勤候様被仰付年中
居候之内ヲ家来ニ仕置候様上ニ付大坂ニ而番同心共ニ居候
中候大坂勤之内先年御暇被浪人ニ而与力之内源井半兵衛
与力共之内ニ而相勤候処出来候処候ニ付久敷大坂ニ而番仕候様
乃同心共之知行ニ而も仕置候ニ而大坂勤番ニ仕候大坂ニ而上ケ申候井
半兵衛之出大坂ニ而番仕候御暇之代り与力共之内大坂
二与力一人ニ而御勤ニ付半兵衛二百石之内被相渡候処三百石相領
仕候

同廿七日大唐院殿様御九歳

一 三月大 八日大御所様尾張殿ニ御成、依之水戸殿 御相
伴被成候御前ニ而被為召候ニ付御膳相済御舞御覧遊候御次書院ニ
出御候 御所様御手ツカラ御座敷尾張殿ニ御鷹被下、書院ニ而御太刀被下御腰
上御刀ニ御脇差被仰付候由 のし付てまいらせ三ツ御捨ニ而返し尾張殿ニ御預
戴ニ付御縁ニ而御刀被進尾張殿御上ケニ而御手ニ而渡被遊候御戴
戴其後御返し被成候由及承候所御

一 同十八日 御文谷京へ 公方様御参府

一 同晦日 公方様葛西へ御成、十日安房之大膳亮被為召御鷹
被仰出候 御右之趣ニ而文字御書候 其文字ハ拾

檜檜褘也此之文字之儀不思得給ふや此文字讀候也
此之人用出候て打ちて無之候

一 四月小 二日 碑文谷参る 公方様御遊興

一 河内三郎城主三好家定書に御付知行七千石御人定書候
中寺内丸出知行千七百石 松姫三ヶ度三百人中村四郎
奉行二人供の人より二條に移寺内丸出へ手勢二千騎参る
同知無し 松姫三ヶ返へ出へ奉行同心二千人計参り無し

一 河内浪人子息京へ罷出候に付て被噯筆御方に浪人
仕候て非出処今宿御法被召付候て御方 法施同心三千人
此所にて 御供に仕合や

一 四月 当宮田度八幡度御入度門跡院江戸へ下向

一 同八日 江戸中奉行改元御付 奉行 河原田御祈

一 同月 公家衆西之丸に御目見に付 大番衆安部
摂津守組小幡孫兵衛殿与力中より三里之所へ出迎候て
仕候て摂之所へ罷り出候て横目石川八左衛門参り
参り候て組頭孫兵衛参り候て 孫兵衛与力中より仕候て
不付過残 横目衆 於是中にて孫兵衛殿
仕候て申出候て 御座候て中に付て仕候
上聞法度之儀 御組衆之儀 小普請衆に
其儀申し候 御用拝領如件

法眼ニ而候 五月廿七日 小幡彦五郎 切腹被仰付候 初之儀
ハ御預ケ置候処ニ穿鑿之上ニ而 切腹被仰付候 其後
ハ御改易被仰付
一 五月大 三日 根来出羽 松平縫殿助 御番所被仰付
御番組八組之内 御預ケ被成候 出入之 二組ニ被仰付
一 同六日 将軍様 西之丸江 為御礼御成
一 今度御屋敷御改 商人之借屋ニ付 御改易 又加賀守拝
領之御屋敷ハ 其御屋敷ヲ被下候上
一 同廿八日 西之丸様 彦坂和泉守宅江御成 無之由
水戸殿 [illegible] 被成 為御座候 [illegible]

御出候 一 和泉守 [illegible]
一 銀子五百枚 一 御帷子 五十 一 御腰物 宗次
今日 [illegible] 彦坂 西之丸江 出仕 [illegible]
西之丸様 御成之座 [illegible]
一 御風呂之御茶湯 七十 [illegible] 根来 和泉守 [illegible]
友之清 御目見ニ 御馬 拝領
一 六月小 十七日 南光坊大僧正 御訴訟ニ而上 [illegible]
米之郎 田中之 御加増 被仰付
御前ニ而 [illegible] 将軍様ニ 御成
一 大久保加賀守 [illegible] 千代 [illegible] 武州 [illegible] 二万石

相續見親父加賀守跡相續仕候処、先年祖父相例義
以御取成御礼依御縁坐今度赦免御目見仕候旨也

一 六月十八日 政宗子兵部少輔忠宗初而御目見ニ而御腰物拝領
西の丸様 貞宗 ニ而拝領被仰付候

一 同廿八日 将軍様御茶屋和泉守亭ニ而 御成 御相伴 [illegible]
水谷伊勢守 [illegible] 付而 御茶七日之儀 [illegible]
清水 [illegible] 西丸 [illegible] 之儀
張子 六手殿 五十 ニ帷子 五十 同単物 ニ腰物 貞宗

一 安房守父子 [illegible] 以書院番 [illegible]

一 七月大 朔日 田中主殿 [illegible] 書院番 [illegible]

一 青山伯耆守父子三人御勘気御赦免 [illegible]
大御所様ニ而 伯耆守子 [illegible] 源八郎 [illegible]
小林村ニ 領知 [illegible] 千石 [illegible]

一 同十三日 公方様日光より御社参御還御
此日 [illegible] 御社参 [illegible] 御腰物 [illegible]
[illegible]
仕候 [illegible]

一 同廿一日 御腰物 [illegible]

一 同廿五日 井上外記 大坂 [illegible] 赤坂 [illegible]
横山 [illegible]

一八月大九日大御所様　大御台様　御本丸に
被成御数寄屋にて御相伴も駿河殿水戸殿尾
大御所様御先に駿河殿水戸殿御本丸に出御被成御待
候　将軍様御迎に出御　大御所様御上り被成
将軍様其外之様御迎に出御　駿河殿水戸殿御出
関之白洲迄出御被成御数寄屋に入御ト付
大御所様御膳後水戸殿御前にてしかとしかと被成候
駿河殿御附其外御召候而相済候御膳相済候
御膳之御相伴御龍之御中候御膳之御茶之
ト付也水戸殿　大御所様御膳後御出之被成候

駿河殿御出御出候御手より御数寄屋ニて御相伴にて御数
寄屋ニ入御候御膳相済候て御茶被下候也
御茶之湯相済
一御茶道　将軍様御茶之湯仕水戸殿被成
大御所様に御上ヶ被成候又御路次仕被成御茶ヲ水戸殿御立被成候
御出之　将軍様にも御相伴被成御茶被下水戸殿御前駿河殿
御出之駿河殿まいり御茶之水戸殿まいり候て和泉守
御そとし御座之間水戸殿御まいり候和泉守和泉守
御召御座被成
大御所様御立被成候而御茶道御楼手にあり御書院に

出御之節御次之間西之番之奥ニ　入御之節出席申し
御座候ゟり　於御書院帯し　御膳上御相伴
将軍様　駿河殿ニ被成候
　　御盃之御酌
初献之節迄御手前と御盃之まいり二献御盃
大御所様御初盃　将軍様御頂戴之侍
大御所様ゟり御肴掛被遊候　千御盃
一大御所様被上御盃之駿河殿御頂戴御肴御捕鋳千盃
一大御所様上り御盃水戸殿御頂戴御肴御捕鋳千盃
一大御所様被上御酒御銚子無之出て又御盃出申候

一大御所様御初献御祝中と御肴出て御座候
一将軍様御陪千御盃　大御所様御上り二献御附
一将軍様ゟり御陪相御頂上て二献御千盃
一将軍様御頂戴御盃駿河殿御頂戴御肴御捕鋳千盃
一将軍様ゟ御上り御盃水戸殿御頂戴御肴御捕鋳千盃
将軍様上り御盃尾張殿ゟ御酒御菓子出て御盃御菓子御肴
御盃出て御盃之次御膳出御膳之上御盃駿河殿水戸殿
御同じ次第御盃御座候　御銚子御盃　御役衆被成候
其後ニ太刀ゟり御祝之申候
一
同十日　河部信州ニ太刀被下　御室ニ而御付

一今年紀伊國三浦ニ而鯨三百五十程取申候由沙汰有之

一八月廿三日増上寺廓山上人死去、方丈ゟ了的上人ニ被仰下

一九月小 十日一條殿江戸ゟ御上洛

一同廿六日松平飛騨守被任伊勢守 五千石拝領

同日 稲葉丹後守様信濃ニ一万石加増拝領

同日 酒井河内守様上州板鼻二万石加増拝領

同日 内藤紀伊守様遠州真砂之五千石拝領

一十月大 十一日稲葉丹後守様駿府ニ入部、同晦日出立

同十三日江戸ゟ発足　十二月廿七日 同年帰郷

一同十二日頃公方様為御上使三浦志摩守殿　志摩守

一文字山勝手、従駿河殿拝領

一同十九日後光明院殿御経供養

一同晦日林学士先年孔野之御廟普請、御褒美被下之
自身ニ致拝領

一置御

一十一月小 朔日

一同廿九日永井右近大夫死去

右自寛永元年至二年記以林大学頭写本補写

元治乙丑之夏四月以楓山官庫本対校

奥村学

矢口浩

日本政府図書

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan